
2023 年度
日本科学未来館 活動報告

2023 年度 日本科学未来館 活動報告

I. Miraikan ビジョン 2030 の実現に向けて	1
■ スローガン「Mirai can__! 未来は、かなえるものへ。」	1
■ Miraikan ビジョン 2030 実現に向けた 5 つの取り組み	1
II. 活動報告	2
1. 人の未来を考える	2
■ シリーズ企画「Mirai can NOW」	2
■ 常設展	4
■ 特別展	5
■ 科学コミュニケーション・アクティビティ	6
2. 未来をつくる	10
■ 未来館におけるアクセシビリティ技術開発と実証	10
■ 地域・自治体と連携した実証や共創の推進	10
■ 未来館に入居する研究プロジェクトとの連携・協働	11
3. みんなでつくる	13
■ メンバーシップ「Miraikan ID」	13
■ ボランティア活動	13
■ 世界の科学館ネットワークにおける情報発信・交流	13
■ 国内外からの来賓	15
■ 国内外各地への普及展開	17
4. 「未来をつくる人」をつくる	19
■ 人材開発	19
■ 科学館関係者、教育関係者への科学コミュニケーション活動・技能の普及	24
■ 学校団体向けプログラム	24
5. サステナビリティとアクセシビリティ	25
■ サステナビリティ	25
■ アクセシビリティ	25
III. 来館者データ	27

(主な活動を抜粋して掲載、氏名敬称略)

I. Miraikan ビジョン 2030 の実現に向けて

■ スローガン「Mirai can__! 未来は、かなえるものへ。」

2021 年 4 月に掲げた新たなビジョン「あなたとともに『未来』をつくるプラットフォーム」をより多くの方に身近に感じてもらうためのスローガン。たくさんの人の「かなえたい未来」が集まり、多様な人たちと共に実現していく、そんなプラットフォームになることを目指すことを表したものの、「Mirai can」に続く空白には、一人ひとりが自分事として、かなえたい未来を想像してほしいという想いを込めている。

Mirai can __!
未来は、かなえるものへ。

■ Miraikan ビジョン 2030 実現に向けた 5 つの取り組み

多様な人々が集い、最先端の科学技術を活用して、一人ひとりが思い描く未来をかなえる。そんな「未来をつくるプラットフォーム」になるために推進する、5 つの取り組みを設定。

1. 人の未来を考える

一人ひとりが「自分のこと」として未来を考えられるよう、「Life」「Society」「Earth」「Frontier」という 4 つのテーマを切り口に、先端科学技術がもたらす人の未来に焦点をあてた展示やイベントなどの科学コミュニケーション活動を展開する。



2. 未来をつくる

展示やイベントだけでなく、未来社会に向けた最先端の研究開発や実証実験などが体験できる、そんな「未来社会の実験場」を目指す。そのために研究者や企業、自治体など、多様なステークホルダーとの連携や共創などを推進する。



3. みんなでつくる

継続的に未来館との関係を構築するメンバーシップと、アプリやWEBなどのデジタルプラットフォームの企画・運用を通して、さまざまな立場の人々がつながり、主体的に未来づくりに参画することができる仕組みをつくる。



4. 「未来をつくる人」をつくる

解説や対話などで科学技術への興味関心を醸成するとともに、さまざまなステークホルダーが集い共創する実証実験や課題解決にむけた活動をコーディネートするなど、「未来をつくる人」として科学コミュニケーターの活躍を促進する。



5. サステナビリティとアクセシビリティ

社会的責任として環境負荷の軽減やアクセシビリティの充実に取り組むだけでなく、新しい技術などを実験的に導入するなど、先進的な活動を積極的に推進する。両分野のロールモデルミュージアムとしての実践や発信、普及を通して社会に貢献する。



Ⅱ. 活動報告

1. 人の未来を考える

一人ひとりが「自分のこと」として未来を考えられるよう、「Life」「Society」「Earth」「Frontier」という4つのテーマを切り口に、シリーズ企画「Mirai can NOW」や大規模な常設展リニューアル、特別展、その他さまざまな科学コミュニケーション活動を行った。

■ シリーズ企画「Mirai can NOW」

未来に向けた研究開発やその実現に取り組む人々の「いま」に触れ、体験するシリーズ企画として2022年度より開始したもの。2023年度は第4弾（Earth領域）、第5弾（Society領域）、第6弾（Life領域）を実施。

▶ 第4弾「どうする!? プラごみ」(Earth)

世界的に関心が高まるプラスチックごみ問題の現状や、解決に向け取り組む人々をオブジェやパネル展示、ワークシートを通じて紹介。

開催：2023年4月1日～8月31日

プログラム：

- ・こんなに!? わたしたちの出すプラごみ
日本で1人あたりが1年間で出す容器包装の量に相当する、32キロ分のプラごみをあつめたオブジェを展示。
- ・たいへん!? プラごみとわたしたちの社会
プラごみを与える環境や人の健康への悪影響等、プラごみ問題の現状を知ることができるパネル展示。
- ・かいけつ!? プラごみのない地球へ
プラごみ問題が解決される未来を目指して取り組む5人の実践者の活動や、サステナブルな未来を目指して考える「問い」を紹介。来館者のアイデアをシェアするボードも設置。



▶ 第5弾「コトバにならないプロのワザ ～生成AIに再現できる?」(Society)

生成AIの普及によってあらためて問われる人間の知能、知性、創造性とは何か、という問いを提示する企画。著名な言葉のプロに、生成AI（チャットGPT）を活用しながらコトバにならないプロの“ワザ”（自らの暗黙知）の再現に挑戦してもらい、オリジナル動画や問いを整理したパネルを展示。

開催：2023年9月13日～11月13日

プログラム：

- ・動画展示
各界のプロ3名が生成AI（チャットGPT）という鏡に自らのワザをうつし、生成AIに抱く懸念とこの技術と向きあうことで生まれる可能性への期待について、それぞれの慎重さと好奇心をもって語る様子をおさめた動画を展示。
出演：谷川 俊太郎（詩人）
小沢 一敬（お笑い芸人）
大場 美鈴（うちの子専門家）



・パネル展示

人間が使う機械という存在に収まらない「生成AI」が、人間の創造性や倫理観にどのような影響を与えるか等を問いかけるパネルを展示。

- ・トークセッション「生成AIが浮かびあがらせる“あなた”と“私たち”」
個人として生成AIとどうつきあうかという問いと、社会としてどう舵取りをしていくのかという課題。これらをつなぐ際に見落としてはならないこと、聞き逃してはならない声についてそれぞれの思いを語り合う対話イベント。

ゲストスピーカー：板津木綿子（東京大学情報学環 教授、B' AI Global Forum ディレクター）

開催：2023 年 11 月 12 日



▶ 第6弾「春の茶話会 ねえ、未来館でお茶しない？」(Life)

再注目されている「お茶」について多角的に探るとともに、お茶を介したコミュニケーションについて考える企画。

開催：2024 年 3 月 20 日～4 月 15 日

プログラム：

・みんなで茶話会

日本茶インストラクターがいれるお茶を飲みながら、科学コミュニケーターや他の来館者と多様なテーマをもとにトークするイベント

開催：2024 年 3 月 22 日、23 日、29 日、30 日

4 月 5 日、6 日、12 日、13 日、14 日

- ・トークセッション「飲んで探る！ おいしくて濃いお茶の世界」

ゲストスピーカー：一家 崇志（静岡大学学術委員農学領域 応用生命科学 准教授）

白井 満（ふじのくに茶の都ミュージアム 研究員）

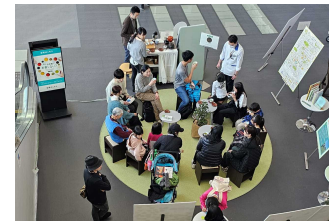
開催：2024 年 3 月 20 日

- ・トークセッション「飲んで語る！ どうして私たちは“お茶する”のだろう？」

ゲストスピーカー：磯野 真穂（文化人類学者）

岡根谷 実里（世界の台所探検家）

開催：2024 年 3 月 31 日



■ 常設展 - 4つの新常設展示公開 -

Society5.0 実現に向けた探究や STEAM 教育に資する 4 つの新たな常設展示を 2023 年 11 月 22 より公開。最新の科学技術にもとづく展示体験を広く提供することで、来館者がさまざまな社会課題との向き合い方や解決に向けたヒントを自分自身で探ることを目指した展示を企画・制作した。

▶ 新常設展示「ハロー！ ロボット」

ロボットたちとのふれあいや、最新ロボティクス研究の紹介を通して、未来の多様なロボットとの暮らしを想像する展示。人とのコミュニケーションやセラピーを目的に開発されたロボットとの触れあいや、来館者がそれまで持っていたロボットのイメージが変わるような最新の研究紹介により、未来の人とロボットの関わりを想像する。

監修：茂木 強（科学技術振興機構研究開発戦略センター フェロー）

▶ 新常設展示「ナナイロクエスト -ロボットと生きる未来のものがたり」

専用のタブレット端末を用いてロボットが活躍する未来のまち「ナナイロシティ」へのツアーを通じ、ロボットと生きる未来の社会を考える体験型の展示。3種類のツアーから1つを選び、登場キャラクターと会話をしたり、まちの中に設定されたアイテムを発見したりすることで物語が進んでいく。

監修（ロボット技術）：安藤 健（早稲田大学次世代ロボット研究機構 客員次席研究員）

監修（問い・体験）：塩瀬 隆之（京都大学総合博物館 准教授）

▶ 新常設展示「プラネタリー・クライシス -これからこの地球でくらすために」

映像体験や科学的なデータをもとに地球環境と暮らしを多角的に見つめ直し、未来のための前向きな一歩を探る展示。すでに気候変動の危機にさらされている地域の人々の暮らしを体感し、急激に変化する地球環境の今を科学的なデータにもとづいて捉え、自分たちの暮らしがさまざまな環境問題を引き起こしている現状を理解していく。

総合監修：武内 和彦（公益財団法人地球環境戦略研究機関（IGES））

江守 正多（東京大学未来ビジョン研究センター、国立研究開発法人国立環境研究所）

▶ 新常設展示「古いパーク」

老化による目・耳・運動器・脳の変化について、いくつかのゲームを通して五感で疑似体験できる展示。誰にでも訪れる「古い」が起こるメカニズムや対処法、将来身近になるかもしれないサポート技術などを知りながら、老いとのつきあい方を考えていく。

総合監修：荒井 秀典（国立長寿医療研究センター）

監修：稲富 勉（国立長寿医療研究センター）

内田 育恵（愛知医科大学）

櫻井 孝（国立長寿医療研究センター）



■ 常設展 - 零壹庵（ゼロイチアン） -

アート作品を通して、科学技術とともに変わり続ける人の認識や社会について考えるギャラリー展示「零壹庵」において、2つのコンテンツを展示。

▶ 「ちいさなロボットたちがこだまする森」

小さなロボットたちが光や音を出しながら集団で暮らす架空の森の様子を表現した展示。照明演出によって昼夜が移り変わり、夜になるとそれぞれのロボットの動きが緩やかになったり、互いに寄り添うように森のオブジェに集まったりする姿を見ることができる。

展示期間：2023 年 4 月 1 日～12 月 3 日

総合監修：伊東 順二（美術評論家）

アーティスト：菅野 創



▶ 「太陽の通り道 -霧の NFT がたどる永遠」

アーティスト A. A. Murakami による体験型 NFT アート作品「The Passage of Ra（太陽の通り道）」を展示。展示空間で発生させた霧のリングが、あたかも仮想空間に生成されたデジタルの霧のようにスクリーンに映り、太陽へと向かっていく様子を見ることができる。

展示期間：2024 年 1 月 24 日～

総合監修：伊東 順二（美術評論家）

アーティスト：A. A. Murakami



■ 常設展 - リニューアル -

▶ 「ノーベルQ ノーベル賞受賞者たちからの問い」リニューアル公開

ノーベル賞受賞者たちからの「問い」をメッセージとして紹介する常設展示を、9 月 6 日よりリニューアル公開。多言語や日本手話での鑑賞に対応した映像などを追加することで、展示鑑賞へのアクセシビリティ強化を行った。



■ 特別展

▶ 「NEO 月でくらす展 ～宇宙開発は、月面移住の新時代へ！～」

月面での長期滞在が実現した世界を科学的な知見をもとに描き出し、その生活を疑似体験できる新感覚の体験型展覧会。日本科学未来館と、図鑑NEOを展開する小学館などの各社協力のもとで開催。

開催：2023 年 4 月 28 日～9 月 3 日

主催：日本科学未来館、小学館、NEO 月でくらす展製作委員会

監修：佐伯 和人（立命館大学 教授）

・ 夏休み自由研究フェス

夏休み期間中に、月面探査ローバーの操縦体験や宇宙日本食の研究、月着陸に挑んだ HAKUTO-R 月着陸船のペーパークラフトなど、月面や宇宙空間での暮らしを体験しながら学ぶ特別展関連イベントを開催。

開催：2023 年 7 月 29 日～8 月 2 日



■ 科学コミュニケーション・アクティビティ

▶ レギュラーアクティビティ

・ワークショップの定期開催

「気象マスターをめざせ！～雲ができるしくみ」「ナゾ解きでせまる！原因と結果のミステリー」「PCR ってなに？～アスパラガスの遺伝子をしらべよう～」「ロールプレイングゲームで体験！気候変動から世界を守れ」「科学の目で見て描いてみよう ～深海魚のかんさつ&スケッチ～」など、さまざまなテーマのワークショップを Miraikan ID 会員向けに定期開催し、一部学校団体向けにも展開。



・科学コミュニケータートーク

人や暮らし、街や社会のこれから、地球や宇宙など多彩なテーマを扱った科学コミュニケーターによるトークプログラム。常設展示ゾーン内「コ・スタジオ」にて毎日複数回開催。



・リクエスト解説

常設展示の中から気になる展示のリクエストを受け付けて、科学コミュニケーターが解説を行うプログラムを毎日実施。



▶ シーズンアクティビティ

・みどりの学術賞受賞記念トークイベント「植物博士と一緒に歴史さんぽ～DNA からわかる植物の歩み～」

それぞれの異なる視点から植物に関する大発見をし、令和5年（第17回）みどりの学術賞を受賞された2名から話を聞き、植物研究の最前線に立つ研究者のリアルな声を通して、植物の世界や植物を研究する醍醐味に迫るトークイベントを実施。

開催：2023年7月29日

ゲストスピーカー：津村 義彦（筑波大学 教授）

倉田 のり（国立遺伝学研究所 名誉教授／総合研究
大学院大学 名誉教授）



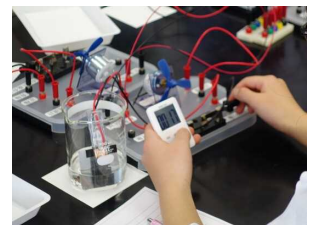
・【特別実験教室】ノーベル賞化学者からのメッセージ「導電性プラスチックを作ろう！」

2000年にノーベル化学賞を受賞した白川英樹博士みずからが、実験を通して化学の不思議さ、面白さを伝える特別実験教室を開催。電気を通すプラスチック「導電性プラスチック」をテーマに、実際に参加者がこのプラスチックを作り、また作ったプラスチックを使った応用実験を実施。

・「二次電池への応用」 開催：2023年7月16日

・「透明フィルムスピーカーへの応用」 開催：2023年8月20日

講師：白川 英樹（筑波大学 名誉教授）



・科学コミュニケーターと楽しむノーベル賞 2023

ノーベル賞自然科学 3 賞の発表当日に「科学コミュニケーターと楽しむノーベル〇〇賞」を配信。ノーベル賞に関する基本情報の紹介に加え、各賞の関連研究も紹介。ヒトゲノム情報の応用研究などをされている小原 収先生(公益財団法人かずさ DNA 研究所)に科学コミュニケーターが事前にインタビューを行い、研究の奥深さを独自の視点で解説。受賞発表時刻には、スウェーデンの会見の様子をインターネット中継で見守りながら、視聴者と一緒に発表の瞬間を迎えた。

開催：2023 年 10 月 2 日～4 日



・科学コミュニケータートーク「だから化学は面白い！」

10 月 23 日の「化学の日」と化学の日を含む「化学週間」に合わせて、化学のおもしろさがつまった科学コミュニケータートークを開催。トーク参加者には 2023 年度版「化学の日缶バッジ」と「周期表クリアファイル」を配布。

開催：2023 年 10 月 23 日～29 日



・イグ・ノーベル賞公式イベント「Ig Nobel Face-to-Face 2023 in JAPAN」

「素朴な疑問から始まる科学」を伝え、科学・技術の面白さを共有する目的として、イグ・ノーベル賞受賞者とノーベル賞受賞者を招いたイベントを実施。イグ・ノーベル賞の公式イベントとして日本初の開催。

開催：2023 年 12 月 17 日

登壇者：・梶田隆章（東京大学宇宙線研究所）

ノーベル賞 物理学賞受賞（2015）

・宮下芳明（明治大学 総合数理学部）

イグ・ノーベル賞 栄養学賞受賞（2023）

・クリスチャン・チャン（国際基督教大学教養学部）

イグ・ノーベル賞 教育学賞受賞（2023）

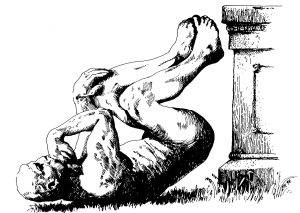
・栗原一貴（津田塾大学 学芸学部情報科学科）

イグ・ノーベル賞 音響学賞受賞（2012）

・中垣俊之（北海道大学電子科学研究所）

イグ・ノーベル賞 認知科学賞受賞（2008）

イグ・ノーベル賞 交通計画賞受賞（2010）



- ・トークイベント「天気をあやつる? ～E テレ映像と実験でのぞき見る気象研究の未来～」

ムーンショット型研究開発事業の関連イベントとしてNHK E テレの貴重な映像とステージ上の実験などで気象に関する基礎知識を解説するとともに、台風や豪雨の制御に向けた研究を行う研究者の挑戦を最新の研究成果などとあわせて紹介。

開催：2024 年 3 月 31 日

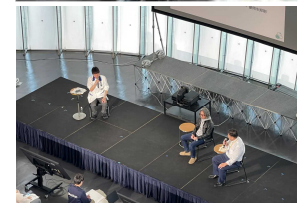
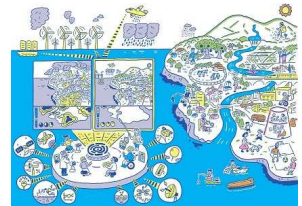
登壇者：滝川 洋二（NPO 法人ガリレオ工房 名誉理事長）

早川 詩音（NPO 法人ガリレオ工房 理事）

筆保 弘徳（横浜国立大学 台風科学技術研究センター長）

三好 建正氏（理化学研究所 計算科学研究センター）

山口 弘誠氏（京都大学 防災研究所 准教授）



▶多様な科学コミュニケーション手法の開発・実施

- ・「Cinema 未来館」

映画を鑑賞した後、研究者を招いたトークセッションを通して考えを深めるイベント。2022 年に続き開催。

Cinema 未来館「友達やめた。」わかりあうって、むずかしい・・・?

開催：2023 年 4 月 2 日

ゲストスピーカー：岩隈 美穂（京都大学大学院 医学研究科 准教授）

Cinema 未来館「AI の遺電子」～ロボットとの未来、日常、そして葛藤

開催：2023 年 10 月 7 日（土）

ゲストスピーカー：

山田 胡瓜（漫画家）

塩瀬 隆之（京都大学総合博物館准教授）

安藤 健（早稲田大学 次世代ロボット研究機構 客員次席研究員）



- ・「科学技術週間」関連イベント

日本の科学技術の振興を図ることを目的として制定された「科学技術週間」にちなんで、関連するイベントを期間中（4 月 17 日～23 日）に開催。また文部科学省が発行する学習資料「一家に 1 枚 ウィルス」ポスターを関連イベント参加者等に配布。

- ・一家に 1 枚を一緒に読もう！

開催：2023 年 4 月 17 日～23 日

- ・肝炎ウィルスすごろく体験

開催：2023 年 4 月 17 日～23 日

- ・専門医にきく！肝臓の守りかた

開催：2023 年 4 月 22 日



・「考えてみよう！明日地震が起こったら？」

1923 年 9 月 1 日に発生した関東大震災から 100 年の節目の年にあわせて、「明日大きな地震が起きたら、自分の身に何が起きるのか？」という問いに向き合うイベントを開催。災害をテーマにした展示ツアーに加えて、仙台市天文台制作のプラネタリウム番組「星よりも、遠くへ」を鑑賞。

開催：2023 年 8 月 15 日、9 月 2 日

2024 年 3 月 9 日、10 日



・「みんなでサステナブルな展示をつくる」

11 月に公開した新常設展示「プラネタリー・クライシス」の展示制作過程において、環境負荷低減を目指したサステナブルな展示づくりを考えるワークショップを開催。館内だけでなく、展示で使う材料の生産地でも実施。

・ものづくりで森の可能性を見つけるツアー＆ワークショップ

開催：2023 年 7 月 29 日（東京都西多摩郡檜原村で開催）

ゲストスピーカー：吉田 尚樹（株式会社東京チェンソーズ）

黒部 駿人（VUILD 株式会社）

・展示を捨てないアイデアを見つけるワークショップ

開催：2023 年 10 月 21 日

ファシリテーター：黒部 駿人、長岡 勉、風祭 あゆみ、宇都宮 惇
(VUILD 株式会社)



2. 未来をつくる

「未来社会の実験場」を目指して、大学・研究機関や企業、地域・自治体など様々なパートナーと連携・協力し、最先端の研究開発や実証実験を推進し、来館者とともに未来を共創する。

■ 未来館におけるアクセシビリティ技術開発と実証

視覚障害者の未来の生活を支える技術の研究開発を行うコンソーシアム型研究室「未来館アクセシビリティラボ」において、参画する企業や大学とともに、ナビゲーションロボット「AI スーツケース」や、触れて理解するインタラクティブな展示の開発、先進システムを用いた展示体験コンテンツの開発などを推進。屋内外での実証実験も行った。



▶ AI スーツケースの開発と屋内外での実証

- ・未来館内からテレコムセンター駅改札までの屋内外シームレス走行実証、および未来館内での多人数に対するサービス実証を実施。

開催：2023 年 9 月 15 日～24 日

▶ 先進システムを用いた展示体験コンテンツの開発と実証

- ・スマートフォンアプリを使った位置測位とナビゲーション、充実した音声コンテンツ等による視覚障害者向けコンテンツを開発し、実証実験を実施。

開催：2023 年 12 月 17 日、2024 年 3 月 23 日



■ 地域・自治体と連携した実証や共創の推進

地域・自治体と連携し、未来館のみならず地域全体をフィールドとした最先端技術の実証や、社会との共創の取り組みを推進。

▶ 「次世代モビリティ実証プロジェクト」 「ARTBAY TOKYO 2023」

東京都と連携し、地域の次世代技術実証やアート振興の取り組みに参画。

「ARTBAY TOKYO 2023」とDIC 協議会「次世代モビリティ実証プロジェクト」を連携開催し、AI スーツケースの地域公園における屋外実証や次世代モビリティ体験、未来館を会場とした先端テクノロジー×アートの体験イベントや AI 共創ワークショップ等を展開した。

開催：2023 年 9 月 15 日～24 日



▶ 「自動運転プロジェクト」

東京都の臨海副都心自動運転サービス構築プロジェクトと連携し、地域における自動運転実証の推進や、市民参加、科学コミュニケーション活動において協働。EVバス、タクシーなどの多様な公道自動運転車両が未来館に発着し、来館者の自動運転試乗体験や、自動運転技術展示、技術者との対話機会を創出。未来館メンバーシップ会員向けの特別試乗会の設定や、試乗後アンケートの実施による事業化に向けた社会受容性評価や課題検証への協力を実施した。

実証開催：2023 年 11 月、2024 年 2 月、3 月



■未来館に入居する研究プロジェクトとの連携・協働

未来館「研究エリア」には最先端の研究開発を行う多様なプロジェクトが入居。市民に近い場での研究開発の推進のみならず、研究室訪問やワークショップ、市民参加型研究や実証実験等の科学コミュニケーション活動を実施。

研究エリア入居・実施プロジェクト：

- ・「対話知能学」プロジェクト
研究代表者：石黒 浩（大阪大学大学院 基礎工学研究科）
- ・「xDiversity（クロス・ダイバーシティ）」プロジェクト
研究代表者：落合 陽一（筑波大学 図書館情報メディア系）
- ・「運動能力開発・拡張」プロジェクト
研究代表者：川上 泰雄（早稲田大学スポーツ科学学術院／早稲田大学総合研究機構ヒューマンパフォーマンス研究所）
- ・「こどもからみる不思議世界探求」プロジェクト
研究代表者：山口 真美（中央大学 文学部）
- ・身体性メディアプロジェクト「Cyber Living Lab」
研究代表者：南澤 孝太（慶應義塾大学大学院 メディアデザイン研究科（KMD））
- ・「サステナブルバイオテクノロジー」プロジェクト
研究代表者：渡邊 一哉（東京薬科大学 生命科学部 生命エネルギー工学研究室）
- ・「知的やわらかものづくり革命」プロジェクト
研究代表者：古川 英光（山形大学 ソフト&ウェットマター工学研究室 SWEL）
- ・「ヒューマン・オルガノイド」プロジェクト
研究代表者：武部 貴則（東京医科歯科大学 統合研究機構／横浜市立大学 先端医科学研究センター コミュニケーション・デザイン・センター／シンシナティ小児病院 消化器部門・発生生物学部門／Takeda-CiRA Joint Program for iPS Cell Applications (T-CiRA)）
- ・「ミトコンドリア生合成」プロジェクト
研究代表者：遠藤 斗志也（京都産業大学 生命科学部）

▶「のぞいてみよう!研究エリア」

研究エリアに入居する研究プロジェクトについて、研究内容を紹介し、実際の研究現場の見学や実験機器を使った体験、研究者と直接対話するイベントを月2回定期的に実施。



▶ トークイベント・ワークショップなど

研究者やゲストスピーカーとのトークや、研究内容に関する多様なテーマでのワークショップなど、研究エリア入居プロジェクト主体でのイベントを定期的開催。

- ・「たんけんしよう! あなたの知らない”色”の世界」
実施プロジェクト：「こどもからみる不思議世界探求」プロジェクト
開催：2023 年 8 月 13 日
- ・「さわってあそぶ! 機械学習おもちゃハッカソン」
実施プロジェクト：「xDiversity（クロス・ダイバーシティ）」プロジェクト



開催：2023 年 12 月 17 日

▶ 市民参加型研究・実証実験

来館者が研究に参画するシチズンサイエンスプログラムを開催。

- ・「スーパー発電菌をみんなで探そうプロジェクト」

実施プロジェクト：「サステイナブルバイオテクノロジー」プロジェクト

実施期間：2023 年 7 月上旬～10 月 29 日

- ・「#みんなの肝臓リサーチ」

実施プロジェクト：「ヒューマン・オルガノイド」プロジェクト

- ・「アンドロイド I（アイ）と対話してみよう」

実施プロジェクト：「対話知能学」プロジェクト

- ・6-12 歳のお子さんご家族で、心理学実験に挑戦！

実施プロジェクト：「こどもからみる不思議世界探求」プロジェクト



3. みんなでつくる

来館者メンバーシップ「Miraikan ID」の登録促進を継続して実施。また、ボランティア活動の推進や世界の科学館との交流、国内外からの来賓との交流などを通して、さまざまな立場の人々がつながり、未来館の活動を知り、参加できる取り組みを実施。

■ メンバーシップ「Miraikan ID」

Miraikan ID 登録者にメールマガジン「Miraikan News」の定期配信、年間パスポートの案内、イベントの定期開催の他、新規展示の制作過程における試行会やワークショップなど市民参画の場を創出。



■ ボランティア活動

100 名以上のレギュラーボランティアが展示の体験サポートや展示ツアー、実演やワークショップなどで活動。夏期には短期学生ボランティアとして、大学生や高校生も活躍。



■ 世界の科学館ネットワークにおける情報発信・交流

アジアやヨーロッパ、北米地域などの国際科学館ネットワークにおける連携活動や、年次総会等への参加による日本科学未来館の取り組み事例発信や交流、情報交換を実施。また、駐日大使館等とも連携。

▶ ASPAC Masterclass for Emerging Leaders (AMEL)

開催日：2023 年 8 月 15 日～18 日

会場：IMPACT Exhibition and Convention Center (15 日～17 日)

National Science Museum (NSM) (18 日) (タイ)

- ・ 発表タイトル：「Ready to Act?! Plastic Waste - a sustainable exhibition NOW」

登壇者：セーラ ホクス (科学コミュニケーション室)

参加者：三池 望 (科学コミュニケーション室)



▶ Ecsite 年次総会 (ヨーロッパ科学館ネットワーク)

開催日：2023 年 6 月 15 日～17 日

会場：Mediterranean Conference Centre (マルタ)

- ・ 発表タイトル：「Community voice, improving accessibility for all」

登壇者：大久保 明 (科学コミュニケーション室)

- ・ 発表タイトル：「“Respectfully, I disagree.”」

登壇者：櫻井 あゆ子 (科学コミュニケーション室)

- ・ 発表タイトル：「21st Century Skills : Cultivating Workshop for All」

登壇者：常岡 美理奈 (経営戦略室)



▶ **ASTC 年次総会（北米地域科学館ネットワーク）**

2023 年 10 月に日本科学未来館館長（浅川 智恵子）が ASTC の取締役役員（Board of Directors）に 3 年任期で就任した。

▶ **駐日大使館との連携**

- ・写真展「ASCINATION OF SCIENCE ー世界を変えた研究の原動力ー」

開催日：2023 年 9 月 29 日～11 月 18 日

会場：日本科学未来館 5F ロビー、7 階 ドームシアターロビー

ドイツ人の著名な写真家、ヘアリンデ・ケルブルの写真展を DWIH 東京（ドイツ科学・イノベーションフォーラム東京）と共催。

- ・パネル展「不屈の精神と貢献 カリコー・カタリンの功績」

開催日：2023 年 10 月 4 日～10 月 23 日

会場：日本科学未来館 1 階 コミュニケーションロビー

2023 年ノーベル生理学・医学賞受賞者のカリコー・カタリン博士の功績を伝える展示会をハンガリー大使館と共催。

- ・駐日大使館向けの新常設展の内覧会

開催日：2024 年 2 月 15 日

会場：日本科学未来館 展示スペース、7 階 イノベーションホール、展望ラウンジ

大使や公使、科学技術担当官含め 22 か国から 50 名が参加。

■ 国内外からの来賓

▶ 国内



2014 年ノーベル物理学賞受賞者・
名古屋大学教授
天野 浩氏
2023 年 7 月 17 日



文部科学大臣
盛山 正仁氏
2023 年 12 月 6 日



栃木県知事
福田 富一氏
2024 年 1 月 17 日

▶ 国外



英国エネルギーセキュリティ・ネットゼロ省大臣
グラント・シャップス閣下
駐日英国大使
ジュリア・ロングボトム閣下
2023 年 4 月 13 日



バングラデシュ人民共和国首相
シェイク・ハシナ氏
2023 年 4 月 27 日



バングラデシュ人民共和国国会議長
シリン・シャルミン・チョードリー氏
駐日バングラデシュ人民共和国大使
シャハブッディン・アームド氏
2023 年 5 月 26 日



オーストラリア国立科学技術センター・
クエスタコン館長
ジョー・ホワイト氏
2023 年 6 月 12 日



サイエンス・ミュージアム・グループ(英国)
デプティードイレクター
ジュリア・ナイツ氏
サイエンス・ミュージアム・グループ(英国)
マネージャー
シェリー・ホワン氏
2023 年 7 月 12 日



駐日イラン・イスラム共和国大使
ペイマン・セアダット閣下
2023 年 9 月 15 日



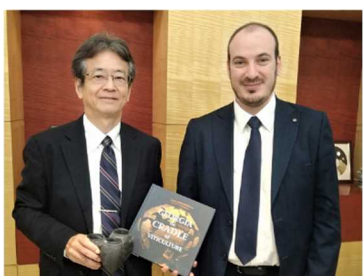
スロベニア共和国
高等教育・科学・イノベーション大臣
イゴル・パピッチ氏
駐日スロベニア共和国大使
ユーリ・リフェル閣下
2023 年 9 月 28 日



英国研究・イノベーション機構(UKRI)
議長、最高責任者
オットリン・レイサー氏
2023 年 10 月 4 日



駐日ハンガリー臨時代理大使
センドレイ・ティボル・チャバ氏
2023 年 10 月 4 日



ジョージア GITA 長官
アヴタンディル・カスラゼ氏
2023 年 10 月 15 日



エクスプローラー・サイエンス・センター
(メキシコ合衆国)理事会理事長
ホルヘ・セラーノ氏
エクスプローラー・サイエンス・センターCEO
ヘラルド・アラランダ氏
2023 年 10 月 20 日



中国科技馆館長
殷皓氏
2023 年 10 月 27 日



英国外務・英連邦・開発相
ジェームス・クレバリー氏
2023 年 11 月 7 日



シンガポール アートサイエンス・ミュージアム
副館長
オナー・ハーガー氏
2024 年 2 月 9 日



トルクメニスタン国会議長
ドゥニャゴゼル・グルマノヴァ氏
2024 年 2 月 22 日



メキシコ農業・地方開発相
ビクトル・ビジャロボス氏
2024 年 3 月 2 日



アジア・ソサエティ・テキサス・センター館長
ボンナ・コル氏
2024 年 3 月 7 日

■ 国内外各地への普及展開

科学コミュニケーション・コンテンツの普及展開を実施。

▶ 全国科学館連携協議会との連携によるコンテンツの展開

・展開コンテンツ

- 「土からわかる防災のおはなし」
- 「宇宙をさわる」
- 「かるたでよみとくわたしと世界のつながり」
- 「海と生きものとわたしたち ～3.11 からの復興をめざして～」
- 「いのちってなに？」
- 「SDGs（持続可能な開発目標）クイズボード」
- 「環境 DNA 博士と水辺の生き物を調査せよ！」
- 「ケミカルパズル&ケミカルすごろく-化学物質と上手につきあおう!-」
- 「金星探査機「あかつき」」
- 「こちら「はやぶさ2」運用室 漫画版」
- 「日本の宇宙科学の歴史」
- 「星座展 -ギリシャ神話からキトラ古墳へ-」
- 「潜水探査船がみた深海生物」
- 「急変する北極が世界にもたらす影響と日本の北極研究の取り組み」
- 「2014 年～2019 年ノーベル賞」
- 「星の衝突で、何ができた？ ～月のうさぎと私たちの地球～」
- 「62 の「月」が織りなす多彩な世界」



・連携・展開実績

釧路市こども遊学館（北海道）、稚内市青少年科学館（北海道）、厚岸町海事記念館（北海道）、苫小牧市科学センター（北海道）、妹背牛町郷土館（北海道）、青森県立三沢航空科学館（青森県）、フェライト子ども科学館（秋田県）、奥州宇宙遊学館（岩手県）、二戸市シビックセンター・田中館愛橋記念科学館（岩手県）、群馬県立ぐんまこどもの国児童会館（群馬県）、向井千秋記念子ども科学館（群馬県）、高崎市少年科学館（群馬県）、つくばエキスポセンター（茨城県）、原子力科学館（茨城県）、日立シビックセンター科学館（茨城県）、埼玉県防災学習センター（埼玉県）、春日部市中央公民館（埼玉県）、千葉市科学館（千葉市）、八王子市こども科学館（東京都）、国際北極環境研究センター（東京都）、黒部市吉田科学館（富山県）、富山県立イタイイタイ病資料館（富山県）、根上学習センター（石川県）、津幡町こども科学館（石川県）、福井県児童科学館（福井県）、松本市教育文化センター（長野県）、静岡科学館る・く・る（静岡県）、とよた科学体験館（愛知県）、豊橋市地下資源館（愛知県）、橿原市立こども科学館（奈良県）、すばるホール（大阪府）、神戸青少年科学館（兵庫県）、明石市立天文科学館（兵庫県）、岡山県生涯学習センター人と科学の未来館サイピア（岡山県）、鳥取市こども科学館（鳥取県）、防府市青少年科学館（山口県）、川口ダム自然エネルギーミュージアム（徳島県）、愛媛県総合科学博物館（愛媛県）、星のふるさと 星の文化館（福岡県）、体験型子ども科学館 0-Labo（大分県）、長崎市科学館（長崎県）、雲仙岳災害記念館（長崎県）、佐世保市少年科学館 星きりり（長崎県）

▶ ドーム映像配給の実施による展開

- ・ドーム映像「FURUSATO 宇宙からみた世界遺産」「9次元からきた男」「INHERIT～はやぶさ2・宙への夢と挑戦をのせて」の配給及び貸出し（平面版やトレーラー映像の貸出しを含む）：

ビッグパレットふくしま（APRIM2023、福島県）、川口市立科学館（埼玉県）、名古屋大学医学部同門会（愛知県）、広島市こども文化科学館（広島県）、ヨーロッパ南天天文台（ESO）プラネタリウム（ミュンヘン大学 アーノルド・ゾンマーフェルト特別講義、ドイツ）、Planetarium Hamburg（ドイツ）

4. 「未来をつくる人」をつくる

解説や対話などを通して科学技術への興味関心を高めるだけでなく、さまざまなステークホルダーが集い共創する実証実験や課題解決にむけた活動をコーディネートするなど、「未来をつくる人」として科学コミュニケーターが活躍。また、教育関係者向けのイベントや次世代を担う小学生～高校生向けの科学コミュニケーションプログラムを開催した。

■ 人材開発

社会全般のさまざまな場面において多層的科学コミュニケーションを展開し、多様な主体との対話・協働・共創を推進することができる科学コミュニケーターの育成に取り組んでいる。科学コミュニケーション活動に必要な知識やスキルの習得のためのプログラム等を実施した。

▶ 研修プログラム

・ 入職時研修

展示理解、演習（解説・実演）

・ スキル研修

業務マネジメント、ライティング、ロジカルシンキング、プレゼンテーション、ファシリテーション

・ スポット研修

科学コミュニケーションの実践事例をテーマとした研修などを実施。（ワークショップ実践から科学コミュニケーションの専門性を考える、総合知の醸成に資するコミュニケーションの要件、ポリフォニックな対話の場をどう作るのか、ファシリテーションをデジタルツインして見えたこと、ナナイロクエスト（常設展示）で目指す科学コミュニケーション、情報収集・情報整理のコツ）

▶ 在籍科学コミュニケーター（2023 年度）と、主な実績

アクティビティ企画系

業務内容：トークプログラムやワークショップ、実演などのプランニング、実施、運用。大学や研究機関、教育機関、企業等との連携プログラムのプランニング、ディレクション、実施。

<青木 皓子>

アクティビティの企画全般に携わり、情報発信や対話活動を行う。これまで、実験教室の開発と運用、研究者とのトークイベントや研究エリア入居プロジェクトのイベントを担当した。

<飯田 綱規>

研究者と連携し、対話の場づくり（トークイベント、市民参加型研究、技術・サービスへの意見募集）、科学的知見の発信（展示、解説記事）などを行う。近年の活動の軸は、人間理解などの基礎研究と日常・社会との関わり、文理を超えた多様なステークホルダーによる総合知の活用など。

<上田 羊介>

アクティビティの企画全般に携わり、生き物や地球環境問題を主なトピックとして、研究者、企業、一般の人々が交わる場づくりや情報発信に取り組む。これまで、環境 DNA を用いた生態系への好奇心を刺激するワークショップの開発や、プラスチック問題に取り組む企業と来館者がアイデアを提案し合うパネル展示の制作などを担当した。

<大久保 明>

アクティビティの企画全般に携わるほか、多様な来館者に開かれたミュージアムの実現を目指して、インクルージョン&ダイバーシティをテーマとしたイベントやワークショップを企画・実施。国際学会などで日々の活動で得られた知見の発信も行った。

<大澤 康太郎>

アクティビティの企画全般に携わり、対話型ワークショップの開発と運用などを担当している。AI(人工知能)をテーマにしたワークショップや、クイズを通して科学技術との関係性について考える企画などを開発した。

<太田 努>

アクティビティの企画全般に携わり、研究者との実証実験であるオープンラボの企画や研究エリア入居プロジェクトのツアーなどを担当した。館内外メディアでの科学記事の執筆やノーベル賞に着目した情報発信も行った。

<片岡 万柚子>

アクティビティの企画全般に携わり、来館者への情報発信や対話活動を行う。学校団体を対象とした企画やコンテンツの開発も担当している。最近は、「対話」「生物」「自然環境」に関するワークショップの実施企画や展示企画に取り組んでいる。

<加藤 昂英>

アクティビティの企画全般に携わり、人文・社会科学やデザインの知見も取り入れながら、誰もが未来館に居場所を見つけられるための取り組みを行っている。これまで、研究エリアとの共同イベントやノーベル賞関連イベント、Mirai can NOW 第6弾「春の茶話会『ねえ、未来館でお茶しない?』」などの設計や実践を担当した。

<グルラジ マラヴィカ>

アクティビティの企画、実施全般を担当し、来館者との対話、ワークショップや実験教室の実施、研究エリア入居プロジェクトのイベントを行った。さらに防災関連イベント「考えてみよう! 明日地震が起きたら?」のファシリテーションにも携わった。また海外からの要人の来館対応なども担当している。

<佐久間 紘樹>

アクティビティの企画全般に携わり、来館者や研究者など多様な立場の人々が対話できることを目指して企画やワークショップを開発している。生成AIをテーマにしたMirai can NOW 第5弾「コトバにならないプロのワザ〜生成AIに再現できる?」や、因果推論を扱うワークショップ「ナゾ解きでせまる! 原因と結果のミステリー」の企画・実施を担当した。

<櫻井 あゆ子>

アクティビティの企画全般に携わり、ワークショップの開発や研究者とのイベントなどを企画する。海外からの要人の来館対応や、国際学会などで日々の活動で得られた知見の発信も行う。

<澤田 拓実>

アクティビティ企画全般に携わり、対話や情報発信を行う。地球科学や深海探査、天文学・宇宙開発の動向に注目している。これまで、物をじっくり観察して科学的なスケッチを描くワークショップの開発や、アクセシビリティ推進の取り組みとした視覚障害者むけ展示ツアーなどを担当した。

<瀬戸 翔吾>

アクティビティの企画全般に携わり、文理の枠にとらわれず主体的で対話的な深い学びが生まれる共同体をつくることを目指している。人文・社会科学や教育心理学の知見を取り入れ、ロボット研究者とのトークイベントの企画やロボットを通じて未来の社会を考える SC トークの開発、海外からの要人の来館対応などを担当した。

<セーラ ホクス>

アクティビティの企画全般に携わり、研究者との市民科学イベントなどを企画・実施。サステナブルなミュージアムの実現を目指し、未来館のサステナビリティ対策や情報発信に取り組む。国際交流や海外からの要人の来館対応なども担当する。

<竹下 あすか>

アクティビティの企画全般に携わるほか、東日本大震災や新型コロナウイルスの流行をテーマに身の回りのリスクとの向き合い方を考えるイベントや展示などを担当している。これまで、特別展「震災と未来」展の展示制作やニコニコ生放送「わかんないよね新型コロナ」の企画などを行った。

<中野 夏海>

海洋生物をはじめ、生命科学分野を中心に情報発信を行う。また、多様な来館者に開かれたミュージアムの実現を目指して、視覚障害者向けのプログラムなどを企画・実施する。

<花井 智也>

常設展をはじめとした展示企画全般に携わるほか、来館者との双方向的な対話活動にも取り組む。DNA の抽出を体験するワークショップや、東京の街と地形の魅力を深掘りするトークイベントなどを実施した。最近では VR 技術などを活用した新しいコミュニケーション手法を模索している。

<廣瀬 晶久>

アクティビティの企画全般を担当する。気候変動や AI をテーマにした対話型ワークショップや導電性プラスチックをテーマにした実験教室、研究者と協働し発電菌を探す市民科学プロジェクトに携わった。また、館内外のメディアで子供向けの科学記事の執筆やノーベル賞に着目した情報発信も行った。Mirai can NOW 第4弾「どうする!? プラごみ」では、展示パネルの制作の一部を担当した。

展示企画系

業務内容：常設展や特別展の制作や改修にかかわるプランニング、ディレクション

大型映像番組、デジタルコンテンツの制作にかかわるプランニング、ディレクション

<安藤 未来>

常設展示の企画開発に携わり、「プラネタリー・クライシス -これからもこの地球でくらすために」の制作において企画・リサーチを担当した。また展示に関連したワークショップの企画、運営、ファシリテーションも行った。さらに、サステナビリティ推進プロジェクトのメンバーとして、サステナブルな素材を使用した展示制作や GHG 排出量の算出などの業務を手がけている。

<岩澤 大地>

展示の企画開発業務に携わり、2023 年度に一般公開した常設展示「ナナイロクエスト ―ロボットと生きる未来のものがたり」「ハロー！ロボット」「ノーベルQ」「ちいさなロボットたちがこだまする森」の企画・リサーチを担当した。その他、「Cinema 未来館『AI の遺電子』」など、展示関連イベントの企画、運営、ファシリテーションを担当した。

<小林 沙羅>

常設展示の企画開発に携わり、これまでにビジョナリーラボ「セカイは微生物に満ちている」や「古いパーク」の制作において企画・リサーチを担当した。また、展示に関連したイベントの企画・運営・ファシリテーションも行う。さらに、アクセシビリティ推進プロジェクトの一員として、聞こえの程度にかかわらず参加できる手話通訳および字幕付き常設展示ツアーの開発・実施なども手がけている。

<坂口 香穂>

常設展示の企画開発に携わり、新規宇宙系常設展示の制作において企画・リサーチを行っている。そのほか、5 階常設展示「こちら、国際宇宙ステーション」とオーバルブリッジ「挑戦者たち」において、宇宙開発の状況に合わせた情報更新も担当している。理系・文系問わず、未来館の取り組みに興味を持ってもらえる展示づくりを目指している。

<佐野 広大>

展示の企画開発業務に携わる。これまでに、常設展示「ナナイロクエスト ―ロボットと生きる未来のものがたり」「ハロー！ロボット」の企画・リサーチや、「ノーベルQ」の手話映像制作ディレクションなどを担当した。また、展示関連イベントの企画、運営、ファシリテーションも行う。さらに、アクセシビリティ推進プロジェクトのメンバーとして、視覚障害者向けツアーの開発・実施や、障害の当事者と協働した展示開発を行う。

<園山 由希江>

特別展、常設展、イベント等の企画・制作業務を担当している。常設展示「古いパーク」の制作においては、企画・リサーチを担当した。展示に関連したイベントの実施、記事の執筆等も行った。

<中尾 晃太郎>

アクティビティの企画全般に携わり、対話型ワークショップの運用や確率・因果推論をテーマにしたアクティビティの企画、Mirai can NOW 第5弾「コトバにできないプロのワザ～生成AIに再現できる？」の企画設計を担当した。また、常設展示の企画・リサーチにも携わる。

<平井 元康>

地球環境をテーマにしたイベントや展示の調査・企画に携わるほか、学校団体を対象としたコンテンツの開発も行う。これまでにMirai can NOW 第4弾「どうする!? プラごみ」、常設展「プラネタリー・クライシス」などを担当した。

<本間 英智>

常設展をはじめとした展示企画全般に携わるほか、宇宙・天文学の分野を主軸に、様々な視点で物事を捉える活動に取り組む。常設展示「老いパーク」、Mirai can NOW 第3弾「宇宙に夢中、発信中!!」および関連特別展示「新しいアイデアで、より良い『宇宙での暮らし』を!」などを担当した。

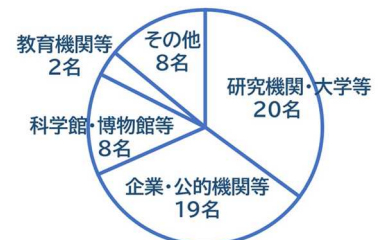
<前山 凌雅>

常設展示の企画開発担当として、新規常設展示に関する企画やリサーチ、既存展示の改修を担当している。そのほか、アクセシビリティ推進プロジェクトの一員として、「文字と絵で伝えあう展示ツアー」の企画や実施も行う。来館者の声を取り入れながら、分かりやすく魅力的な展示づくりを目指している。

▶ 科学コミュニケーター出身者の活動状況

日本科学未来館での任期を終了した科学コミュニケーターは、その多くが全国の研究機関、大学、企業、科学館、教育機関などで活動している。

輩出先内訳（2019～2023 年度、計 57 名）



■ 科学館関係者、教育関係者への科学コミュニケーション活動・技能の普及

▶ 長期派遣研修

現職教員が未来館の活動に携わることで科学コミュニケーション活動のノウハウを学校教育の現場へ還元するとともに、博学連携の強化を目的として実施。2023 年度は1名の長期派遣教員を受け入れ、学校団体の利用実態調査や学校団体向け科学コミュニケーションプログラムの開発・実施などの業務を通じた研修を行った。

期間：2023 年 4 月～2024 年 3 月

派遣元：埼玉県立熊谷西高等学校

▶ 教員のための博物館の日

教育関係者によるミュージアム活用を目的とした「教員のための博物館の日」の一環として、学校団体が日本科学未来館を活用する際に参考にできるプログラムや取り組みを紹介・体験するイベントを開催。

開催：2023 年 8 月 4 日

▶ 教員向けの研修

未来館紹介、展示担当者による講義、ワークシート体験等、学校との連携による校種や目的・要望に応じた教員向けの研修を実施。



■ 学校団体向けプログラム

▶ 見学ワークシート

展示見学を通して、疑問や興味を喚起し、探究的な学習を行う児童・生徒向けのワークシートを配布。

- ・ はじめての展示体験ワークシート（小学4～6年生推奨）
- ・ 未来想像ワークシート（小学4年生以上推奨）
- ・ ワークシート 科学技術の光と影（高校生以上推奨）

▶ 教育関係者向け学習教材

教育関係者向けに、小中学校・高校の授業、大学の講義、科学館のイベント、市民講座などの場で利用できる学習教材を提供。

- ・ SDGs 関連教材「わたしと世界のつながり かるた」
- ・ ワークショップ「月開発会議へようこそ～あなたの選択が未来をつくる」
- ・ ワークショップ「エネルギーの未来を考えよう」
- ・ ワークショップ「もう選べない？未来のお寿司」
- ・ 科学コミュニケーター・トーク映像配信 など



5. サステナビリティとアクセシビリティ

社会的責任として、環境負荷の軽減やアクセシビリティの充実に取り組むだけでなく、サステナブルフード体験や、音声をリアルタイムで透明なパネルに字幕表示するシステムなどを導入し、活動を推進。

■ サステナビリティ

▶ 再生可能エネルギー100%の電力を調達

2022 年 4 月 1 日より使用電力を再生可能エネルギー100%にしており、年間で一般家庭約 700 世帯分の年間排出量※相当となる約 2,000 トンの二酸化炭素を削減。

※環境省調査にもとづき 1 世帯あたり 2.88 トンで算出



▶ サステナブルな食体験の機会を提供

- ・ レストラン「Miraikan Kitchen」にて植物性タンパクなどを原料とし、動物性の食肉と比べて環境負荷が小さいといわれる代替肉を使用したメニューを提供。代替肉についての解説パネルも展示
- ・ ミュージアムショップ「Miraikan Shop」にて昆虫食コーナーを展開。栄養豊富で、育てるときの環境負荷も小さいといわれ、食料問題解決策のひとつとして注目される昆虫。店内では、昆虫食と食肉の環境負荷を比較したパネル展示やアンケート投票も実施。



■ アクセシビリティ

▶ 館内の移動をサポートするツールの提供

視覚障害のある方や車いすを利用する方、地図を読むのが苦手な方がもっと自由に館内をまわれるよう、サポートツールの開発や音声ナビゲーションを提供

- ・ アクセシビリティラボでのサポートツール開発（AI スーツケースなど）
- ・ 館内ナビゲーションアプリの導入（インクルーシブ・ナビ）



▶ 五感を使って体験する展示の提供

2022 年 11 月に公開した常設展示を中心に、見るだけではなく、聞く・触るなど、さまざまな感覚を使って理解したり、発見したりできる新たな展示体験を提供。

- ・ 「ノーベルQ」日本語・英語・中国語・日本手話の多言語対応、点字プレートによる展示の紹介
- ・ 「ナナイロクエスト」音声読み上げ機能によるツアー体験機会の提供
- ・ 「ハロー！ ロボット」ロボットに直接さわったり声をかけたりすることによる展示体験が可能。パートナーロボット「ケパラン」では、「ケパラン」の動きを音声でリアルタイムに聞くことができ、どのようにインタラクションしているかを体感できるコンテンツを導入。



- ・「古いパーク」一部体験コンテンツに視覚障害者モードを導入
- ・「プラネタリー・クライシス」音、振動、風、熱とともに体感できるシアターや、触って理解する展示物に加え、一部展示を点字で紹介
- ・「ドームシアター」映像コンテンツの字幕表示、視覚障害者向け副音声ガイドの提供



▶ みんなが楽しめるイベント

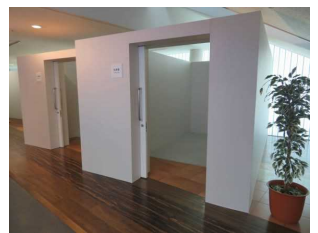
多様な人が参加し楽しめるイベントを企画。リアルタイムで音声を認識し、透明なパネルに字幕を表示するシステムを使った展示ツアーや、3D プリンターで製作した模型などを用いた「さわってわかる」展示ツアーを実施。

- ・文字と絵で伝えあう展示ツアー～透明字幕パネルで科学コミュニケーターとまわる（手話通訳つき）
- ・視覚障害者向け展示ツアー「さわってわかる！宇宙ステーションの暮らし」



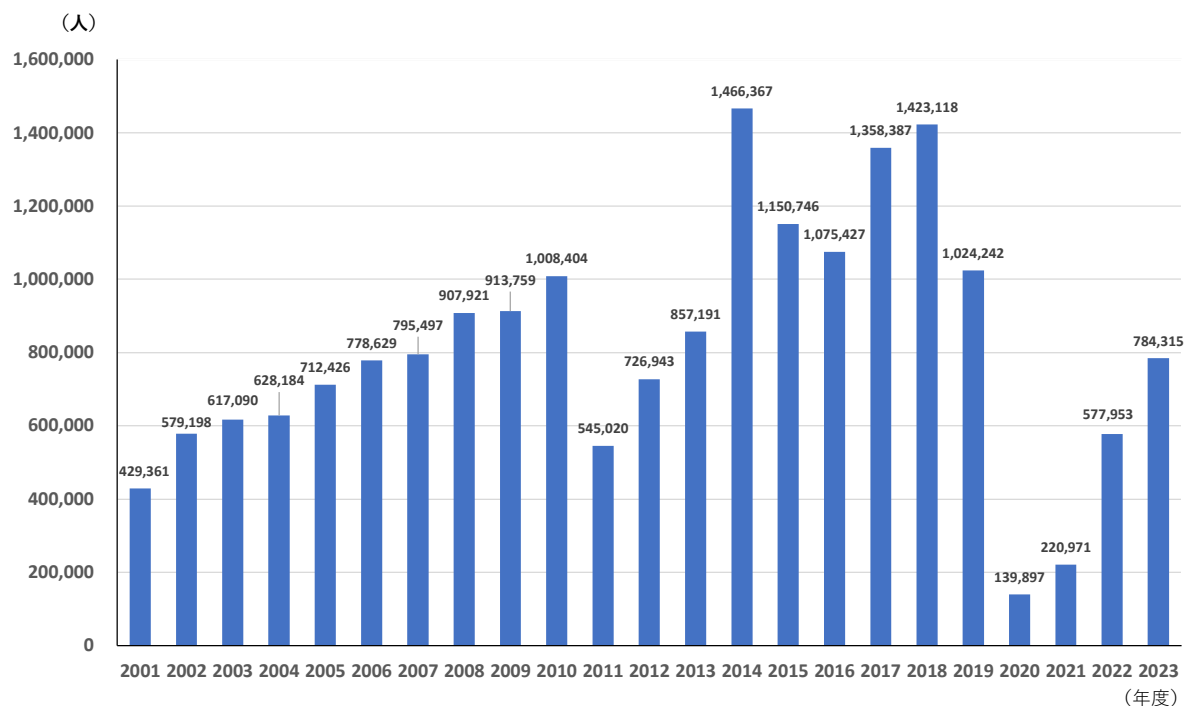
▶ より利用しやすい施設へ

- ・礼拝室の設置（カームダウン・クールダウンスペースとしても利用可能）
- ・全スタッフを対象にサービス介助基礎研修を実施



Ⅲ. 来館者データ

▶ 来館者数推移



▶ 年代別内訳 (2023 年度)

